

宮崎さん・映画編第4話「吸血鬼ドラキュラ（ルーマニア）」

安い映画館で吸血鬼ドラキュラを見た。館内はびっしり観客で埋まっている。時間が経つに従い画面に引き込まれ見ていてなんだか怖くなってきた。場内はしわぶき一つ聞こえない静寂である。心臓の音の高鳴りが人に聞こえてしまわないかと思うほどの恐怖映画だったことを思い出した。

それからおよそ半世紀を経てルーマニアを旅した。城塞都市シギショアラに到着した。12世紀にドイツ人の入植がはじまり15、6世紀に最盛期を迎えたが、現在に中世がそのまま残る山上の町として世界遺産となっている。

この町の一角にドラキュラのモデルになったワラキアの領主ヴラド・ツェペシュの生家があり、現在はドラクルというレストランになっている。市内の広場には大きな領主ヴラドの頭像が飾られていた。

シギショアラの町から160km行くと、ドラキュラ伝説のブラン城に着く。小高い丘にそびえる城は山城で頑丈な作りである。下から眺めると気のせいか陰気で妖気が漂っているような感じがする。

ヴラド公は犯罪者や宿敵トルコ人を串に刺して見せしめにしたことから「串刺し公」の異名があり、アイルランドの作家ブラム・ストーカーの小説「吸血鬼ドラキュラ」のモデルといわれている。



現在生家はレストラン“ドラクル”



ヴラド・ツェペシュ

ここルーマニアではヴラド公は英雄とたたえられ人気は高いが、ブラン城には領主ヴラド公は住んだことはないようだ。



何だか妖気に包まれているように感じるブラン城

ドラキュラのモデルになったブラド・ツェペシュのブラン城は、今やルーマニア観光の大きな目玉で付近はレストラン、土産物やなど賑やかで大勢の観光客であふれている。集落を通り過ぎると急に静かになる。緩やかな坂道の奥に城はうっそうと建っている。(2010年4月)